

日本におけるベンチャーファイナンスのあり方

ベンチャー企業は今後の日本経済の発展に必要不可欠である。海外ではベンチャー企業が成長していくための仕組みが整っており、経済の活性化の一翼を担っている。その反面、日本では「資金調達」「出口戦略」など、ベンチャーファイナンスの分野が未発達である。そこで、ベンチャーファイナンスの現状や課題について分析し、より良いそれにするための具体的方策について考えて欲しい。

---

**【論点 1】：ベンチャー企業の資金調達の現状と課題**

ベンチャー企業の資金調達方法は多岐にわたる。また、ベンチャー企業は成長ステージに応じて資金調達を取り巻く課題も変化する。そこで、成長ステージごとに現状の資金調達を整理し、そこから見出される課題が何かを考えてほしい。

**【論点 2】：非上場株式のセカンダリーマーケット**

アメリカでは、非上場株式のセカンダリーマーケットでの取引量は増加しており、日本でもその整備が進められている。しかし、日本ではそれが機能しているとは言えない。そこで、日本とアメリカをはじめとする海外の未上場株式のセカンダリーマーケットの現状、課題を比較し、日本で未上場株式のセカンダリーマーケットを機能させるには何が必要か、また、その際のステークホルダーへの影響も考えてほしい。

**【論点 3】：出口戦略における現状と課題**

出資者がベンチャー企業へ出資する目的は多岐にわたるが、主として出口での利益獲得を期待している。しかし、日本では出口戦略を巡ってもさまざまな課題が指摘されている。そこで、出口戦略の現状と課題を企業、出資者双方の視点から考えてほしい。

**【論点 4】：望ましいベンチャーファイナンスに向けた具体的方策**

論点 1、2、3 で明らかになった現状と課題を踏まえ、それを改善する具体的な提案を考えてほしい。その際、日本における望ましいベンチャーファイナンスの定義付けもすること。

---

**【留意点 1】：ステークホルダー**

ベンチャー企業は、成長するにつれて様々なステークホルダーと関係をもつ。そのため、ベンチャー企業から見た視点だけでなく、起業家や出資者など様々な視点から論文を書いてほしい。

**※補足説明**

- ・ベンチャー企業の定義は「新しい技術、新しいビジネスモデルを中核とする新規事業により、急速な成長を目指す新興企業」とすること。
- ・どのような出口戦略を取るかは企業ごとに異なる。そのため IPO すべき、M&A すべき、といった結論や討論は控えていただきたい。
- ・論点 4 の提言に関して、出口戦略後に対するものは避けていただきたい。